

256. \*永田 雅・吉住禎夫 (気研・予報): 日本海側の降雪の数値シミュレーション VI - 収束雲帯の変動と総観場の変化-
257. 吉住禎夫 (気研・予報): 新潟県の里雪型降雪時のレーダーエコー分布-1984年1月25日の場合-
258. \*武田重夫・藤部文昭・森 一正 (気研・予報): 冬の北陸地方における「レーダーエコーの移動速度」と 850 mb 風の比較
259. 武田喬男・\*中井専人 (名大・水圏研): 中規模雲群のライン状クラスターとそれに伴う降雨の解析
260. \*村上正隆・新野 宏 (気研・物理): 線状降水雲の組織化に関する研究 (その1)

### 第3会場 放射

座長 内山 明 博

356. \*増田一彦・高島 勉 (気研): 海面直上・直下の放射輝度と偏光度
357. 田中正之・\*小川 浩 (東北大・理): 放射計算における偏光の影響の補正について
358. \*早坂忠裕・中島映至・田中正之 (東北大・理): 対流圏エアロゾルの粒径分布と成層状態 (オリオールメーターとパーティクルカウンターの比較)
359. 竹内義明 (衛星センター): 放射伝達問題における球面関数展開法の計算手順の改良

360. 高山陽三 (気研・衛星): AVHRR 赤外輝度温度と可降水蒸気量との関係
361. \*渡辺清光・新井重男 (気象協会), 河野幸男・浜守一 (小笠原計器製作所): 水晶型放射收支計について

### 測器・応用

座長 岩 坂 泰 信

362. \*青柳二郎・松浦和夫・横山辰夫 (気研・衛星): 2点法によるドップラー測風方式 (一様水平風の場合)
363. \*岡田芳隆・内野 修・田端 功・甲斐憲次 (気研・衛星): ライダーアナログ観測における電氣的雑音
364. 坂上公平 (金沢地台): 石川県における昭和60年梅雨期の大雨と山がけ崩れとの関係
365. 西村浩一・前野紀一 (北大・低温研), \*和泉 薫・小林俊一 (新大): 新潟県能生町柵口表層雪崩発生時の気象
366. \*真鍋大覚・佐藤洋子 (九大): 古木老樹の生長曲線に現れる地震周期
367. \*真鍋大覚 (九大), 志賀正信: 地震前後の大気の脈理と周期

## 学会刊行物ニュース

日本気象学会 気象集誌

## 第II輯 第64巻 第4号 1986年8月

(詳しい目次は10月号に掲載します)

編集後記 (編集委員会寸描): 9月からメンバーが一部交代するのに先だって, 8月の編集委員会にはK氏とS氏が出席された。K氏は「新企画」と称する資料を用意され, 主に, 国内外の情報面の充実を強調された。提案のみに終わらず自らその任を引き受けられ, また最前線の研究情報が集積すると思われるS氏も進んで分担されることになった。

こうした企画は, 多数の会員の積極的なご協力があっ

て初めて実るものである。そうでないと, 編集委員の負担が増えるだけで長続きせず, 挫折感だけが残ることになる。

次号の「天気」が早く読みたくなるような, そんな待ち遠しい雑誌にするために, 編集委員の方々と会員の皆様のご協力をお願い致します。

(書記)